

6 松くい虫特別防除の効果調査（第5報）

予算区分： 受 託
担当科名： 森林育成科

研究期間：平成9年～15年度
担当者名：江崎功二郎
小谷 二郎

．目的

松くい虫被害のまん延防止を図るために特別防除等の防除事業を実施している。これらの防除事業の実施地域における被害状況を把握し、松くい虫防除事業の効果について調査する。

．調査内容

特別防除を実施している松林（1ha）とこれの対照区として、実施していない松林（1ha×2）を設定して、3月に枯損率の調査を行った。

．調査結果

特別防除を実施している松林の平成14年度の被害本数率は0.0%、被害材積率は0.0%であり、これの対照区として特別防除を実施していない2地区の松林の被害本数率は80.0%および60.0%、被害材積は67.5%および78.1%であった。

．考察および今後の課題

6年間の調査において特別防除を実施している松林の被害率は低い値を、実施していない松林の被害率は高い値を示している。これらの結果から特別防除は松くい虫被害まん延に高い防止効果を示すと思われる。

8 マツノザイセンチュウ防除に関する研究（第2報）

予算区分： 受 託
担当科名： 森林育成科

研究期間：平成 13 年
担当者名：江崎功二郎
八神 徳彦

．目的

マツ集団枯損被害はマツノマダラカミキリが媒介するマツノザイセンチュウがマツ樹体内で増殖するために発生する。マツノザイセンチュウを予防するための樹幹注入剤が注目され、名所・旧跡等の庭木のマツに利用されている。

本研究では新たに開発された樹幹注入剤（PC 4716V；ファイザー製薬）の予防効果とその持続期間についての試験を行うものである。

．調査内容

試験地の設置（羽咋市、志賀町）

樹幹注入剤の注入

マツノザイセンチュウの接種

効果判定

．調査結果

樹幹注入木と対照木を比較したところ、明らかに樹幹注入木の健全性が高いことが認められた。また、すべての枯死木から線虫が分離されたため、立木に接種した線虫の病原性が確認された。

．考察および今後の課題

薬剤注入後2年目となる樹幹注入剤 PC 4716V は、樹体内に侵入したマツノザイセンチュウ防除効果が認められ、マツ材線虫病予防薬剤として評価できることが明らかとなった。